

関東地域・露地野菜産地における降雨リスク軽減技術の確立

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構野菜茶業研究所 東尾 久雄

2 研究期間

2005～2007 年度 (3 年間)

3 研究目的

平成 16 年度は、関東地域、特に東部地域の畑作地帯で甚大な降雨被害が発生した。このため、降雨リスクに対応した営農技術を確立する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 平成 16 年度の降雨被害地域における被害要因の解析 (茨城農業総合研究センター、千葉県農業総合研究センター、埼玉県農林総合研究センター、群馬県農業技術センター)

被害実態を調査し、湿害発生要因を明らかにする。

- ② 降雨リスクを軽減する耐湿性野菜および品種の選定 ((独) 野菜茶業研究所、千葉県農業総合研究センター、埼玉県農林総合研究センター、群馬県農業技術センター)

野菜の種類による耐湿性比較を行うとともに、耐湿性の高い品種を選定する。

- ③ 降雨リスクを軽減する栽培技術の確立 (茨城農業総合研究センター、千葉県農業総合研究センター、埼玉県農林総合研究センター、群馬県農業技術センター)

根系分布の浅層化、酸素供給・有機資材の利用、高畦栽培化による湿害軽減技術を開発する。

- ④ 降雨リスクを軽減する排水・管理技術の確立 ((独) 中央農業総合研究センター、(独) 農業工学研究所)

営農排水技術を確立するとともに、軟弱地対応の収穫物搬出技術を開発する。

- ⑤ 新技術の体系化と経営的評価 ((独) 野菜茶業研究所、(独) 中央農業総合研究センター、千葉県農業総合研究センター、埼玉県農林総合研究センター、群馬県農業技術センター)

新技術の組み立てによる体系化と実証、経営的評価を行う。

5 目標とする成果

降雨リスクを軽減化する営農技術を開発する。これにより、関東地域における主要露地野菜の安定生産・供給体制の確立が期待される。

関東地域・露地野菜産地における降雨リスク軽減技術の確立

関東東部地域を中心とした
露地野菜産地を台風・長雨
が直撃

野菜価格の高騰



被害実態の調査・解析
対策技術の確立が急務



達成目標

主要な露地野菜について降雨リスクを軽減する新営農技術を確立

【研究内容】

平成16年度の降雨被害地域
における被害要因の解析

対象野菜：レタス・ニンジン
ネギ・ブロッコリ

調査項目：被害状況・耕種概要
圃場環境

対策技術(新技術)

耐湿性野菜および品種の選定

降雨リスクを軽減する栽培技術

- ・根茎分布の浅層化
- ・酸素供給・有機質資材の利用
- ・高畝栽培化

降雨リスクを軽減する排水・管理技術

- ・軟弱圃場の営農排水処理技術
- ・軟弱地に対応した収穫物搬出技術



作物別の新技術体系化と経営的評価

- ・新技術の組み立てによる体系化と実証
- ・新技術を導入した新技術体系の経営的評価

期待される波及効果

関東地域における主要露野菜の安定生産・供給体制の確立